

機関リポジトリ担当者の人材育成

広島大学・大阪大学・千葉大学

国内各機関における機関リポジトリの発展に資することを目的とし、研修事業やワークショップの開催、関連イベントへの講師派遣等を行うことで、機関リポジトリ担当者のスキルアップを図ります！

Great oaks from little acorns grow.

1. 機関リポジトリ新任担当者研修の開催
2. 機関リポジトリ中堅担当者研修の開催
3. 技術課題解決のためのワークショップの開催
4. 公募ワークショップ・イベントへの講師派遣及びその支援
5. 研修体制の検討



1. 機関リポジトリ新任担当者研修

応募殺到！

	会場	日程	受講者数 (定員30名)
第1回	広島大学	9/8~9/9	29名 ※1名辞退
第2回	NII	10/6~10/7	30名
第3回	NII	11/21~11/22	30名 ←追加開催！



討議の様子↑



機関リポジトリ運営に関する基礎的な知識や技術の習得、情報共有、および意見交換を行うことができました。とりわけ東日本会場では、**受付開始即日に申込者数が定員に達し、追加開催を決定しました。**このことから、本研修の需要の高さがうかがえます。

【講義・実習・討議のテーマ】

- ・オープンアクセスと機関リポジトリの概要
- ・機関リポジトリの構築
- ・広報・コンテンツ収集
- ・優良事例の紹介・模擬プレゼン
- ・著作権概論・実習
- ・メタデータ概論
- ・コンテンツ登録実習
- ・機関リポジトリの公開
- ・グループ討議・発表

内容も充実！

2. 機関リポジトリ中堅担当者研修

NEW

会場	日程	受講者数 (定員30名)
九州大学	10/20~10/21	22名

班討議などの場面ではホワイトボードを活用しました→



↑ 研修の最後に、各受講生が決めた「期限までにやること」を決意表明しました



中級レベルの業務担当者・設置済機関の管理職を対象に研修を実施しました。

【講義・班討議のテーマ】

- ・学術情報流通史
- ・雑誌価格問題への抵抗史
- ・学術コミュニケーションの最新動向 **【班討議】**
- ・国内学会出版の現状と将来
- ・オープンアクセスジャーナルの動向
- ・海外出版社のオープンアクセス戦略
- ・学術コミュニケーションの諸課題 **【班討議】**
- ・機関リポジトリを支える技術基盤
- ・機関リポジトリのコンテンツ増進戦略
- ・機関リポジトリのコンテンツ増進戦略 **【班討議】**

班討議が3つ！

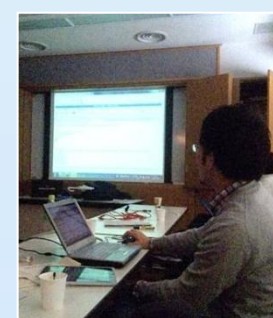
受講者の声

- ・図書館がすすむべき未来像の一端が見えた気がしました
- ・課題は難しかったですが班討議は楽しかったです
- ・最初の事前課題を見た時これが「中」堅か？上級じゃない？と思って本当に不安でしたが、講師の方々がおわかりやすく解説していただいたのでいい研修になりました。

3. 技術ワークショップ in 軽井沢 2011

会場	日程	参加者数 (招待制)
国立情報学研究所 軽井沢セミナーハウス	12/7~12/9	7名 DRF技術WG: 5名 招待メンバー: 2名

機関リポジトリの運営に役立つソフトウェア・ツールを開発する技術ワークショップを実施し、ツールの作成、マニュアル作成、レポート作成、サーバ環境設定等について6つの成果を生みました。詳細はこちら→ <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRFtechKaruizawa2011>



4. 公募ワークショップ・イベントへの講師派遣



内容	会場	日程	参加者数
オープンアクセス講演会 at NAIST	奈良先端科学技術大学院大学	10/31	78名
学術機関リポジトリの充実のための著作権学習会	山梨県立大学	11/9	33名
広島県共同リポジトリ (HARP) 勉強会	広島経済大学	11/25	27名
鹿児島県学術共同リポジトリ講演会	鹿児島大学	11/29	32名
国際武道大学機関リポジトリ研修会	国際武道大学	12/21	11名
神戸市外国語大学リポジトリワークショップ	神戸市外国語大学	1/20	33名
愛媛大学図書館学術講演会	愛媛大学	1/23	35名

DRF加盟機関に対し、特定の学術分野に特化した内容の主題ワークショップや、機関リポジトリの構築・運営に関する技術ワークショップ、あるいは各機関において実施する機関リポジトリに関するワークショップ・講演会への講師派遣の希望を募り、**7箇所に11名の講師を派遣**しました。

5. IR研修検討会議

会場	日程
北海道大学	1/19~1/20

会議の様子→

「IR研修検討会議」へ参加し、デジタルリポジトリ連合とイギリスのRSP (Repositories Support Project)の研修活動について情報・意見交換を行いました。

また、今年度の研修事業の見直しとRSPの報告を踏まえ、来年度の研修事業のスケジュール及び実施形態を検討しました。

これが契機となり、3月1日、DRFはRSP及び英国研究リポジトリ委員会(UKCoRR)との三者間において国際連携に関する了解覚書(Memorandum of Understanding)を締結しました。



DRF企画WG主査(当時) 上田大輔氏とRSPオープンアクセスアドバイザー ジャッキー・ウィッカム氏